

仏教の古い言葉に「鬼手仏心」というものがある。つまりやっていることは凄惨だが、心に仏、平たく言えば衆生に思いやりがあるということ。

今の日本に必要なのは、この「鬼手仏心」なのではないだろうか。

例えば

- (1) コロナ感染状況の正確な判断と対策,
- (2) これまでの判断に誤りがあれば誤りを認め,
- (3) 改善そして1日も早い対策を促し,
- (4) 制度に問題があれば制度の改善を求め,
- (5) 力不足であれば退出, 再度人選を決意実行する

これらを実行できる人が真のリーダーシップをもっている人であり、私が目指すものである。

この熟語は私が座右の銘としている。その意味は文字通り「鬼の手に仏の心」。メスの動きは絶対に躊躇してはならない。一気呵成に切っていく。そのとき、外科医の手はまさに鬼である。変な迷いがあると手術はうまくいかない。私は「この手術では私が世界一の名医だ。この患者さんは私に執刀してもらって幸せである」と思い込むことにしている。不思議と手に鬼が取り付いたように勝手に動き出す。手術の上手な外科医の手をみていると本当にそう思う。切るべき部分、切ってはいけないところは手に取り付いた鬼が判断する。手に仏がついてはならない。冷静なる心の中の仏が手に取り付いた鬼をコントロールする。思い切りは必要だし、思いやりも必要。これは医師だけに限らない話で、バランスが大事なのだろう。

* 浜松医科大学附属病院/浜松医科大学整形外科〔〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山 1-20-1〕Department of Orthopaedic Surgery, Hamamatsu University Hospital/Hamamatsu University School of Medicine

Author Yukihiro MATSUYAMA